

2023. 5. 30
NO. 667号全港湾関西地方
阪神支部大阪市港区築港
1-12-27
06-6574-8424
078-303-0800兵庫県中央
メーデー

メーデー

5月1日、神戸のみなどのもり公園にて第94回兵庫県中央メーデーが開催されました。開会式にて兵庫労連の成山太志議長が税金で軍拡を進めることに對して強く不快感を表し、「そんなことより物価上昇の対策が優先である」と強く話されました。また、各組織から教員未配置問題やインボイス制度の問題、ジェンダー平等に関する訴えが行われました。

そして「大軍拡・大増税反対、格差と貧困の解消、原発ゼロ、社会保障制度の拡充を求める」としたメーデー宣言案を採択しました。



みなとの森公園から出発

メイン・スローガンに、物価高騰による暮らしの危機と大軍拡による平和危機のなか、第94回大阪メーデーが、4年振りに制限なく開催され、扇町公園に働く仲間約2500人が集結しました。

大阪メーデー

5月1日「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義 中立の日本をめざそう」を

菅実行委員長から「憲法9条をいかす平和への流れをつくり、8時間働けば人間らしく暮らせる職場と社会の実現を求めて、職場・地域の行動を大きな束にしよう」と呼びかけました。集会後には、阪神支部宣伝カーを



扇町公園に2500名が集った



大丸までのデモ行進に参加



シュプレヒコールで労働者を激励

41年ぶりとなる歴史的な物価高騰により、労働者の生活は困窮し貧困と格差が拡大しています。すべての労働者の大幅賃上げ・底上げ、雇用の安定、労働時間短縮など「誰もが希望をもてる社会」の実現に向けさらなる団結が必要です。

主催者代表の菅実行委員長から「憲法9条をいかす平和への流れをつくり、8時間働けば人間らしく暮らせる職場と社会の実現を求めて、職場・地域の行動を大きな束にしよう」と呼びかけました。集会後には、阪神支部宣伝カーを

「物には：両端がある。両端を叩いて黒白の変化を同一物の上に起こすところが人間の融通のきくところである」と夏目漱石は「吾輩は猫である」に書いた◆「融通」かどうかは別に、物事を両極端に分けたがるのは人のさだらう◆NHKスペシャル「ジェンダーサイエンス」は、最新の科学を駆使して男女の性差のなぞに迫っていた。「生物学的に考えると、みんながLGBTの素質を持つている」専門家の指摘に驚いた人もいただろう◆ホルモン分泌や自己認識をつかさどる脳の部位の大きさなどは千差万別で、イスラエルの研究チームが1400人を調べると、90%が「男女モザイク脳」だったという◆すったもんだの末、性的少数者への理解を広げる「LGBT理解増進法案」が国会に提出される。多様であることが人間本来の姿と考えれば、遅すぎたというべきか◆反発した自民党保守派の議員は一部の文言を差し替えて、「もう十分に『骨抜き』にした」と語ったという。修正案を議論した姿をテレビで見る。この方たちは「両端」しか目に入らないのか。物事のはほとんどは端と端の間にあるのだが。

大阪総がかり憲法集会

輝け！憲法 平和 といのちと人権を

5月3日、「輝け！憲法

平和といのちと人権を」

のスローガンを掲げ、大阪

総がかり憲法集会が扇町公

園に於いて開催されまし

た。阪神支部からは在阪執

行部7名が参加しました。

晴天にも恵まれ5000

人（主催者発表）の参加が

あり、全体的な印象とし

て、年々参加者の高齢化率

が増している気がしてなら

ないと感じました。

メインスピーチとして、

弁護士佐世さんのお

話のなかで印象に残ったの

は、6大学の学生の中には

「台湾有事が何か？」さえ

分からなかった人がいたこ

と。戦争という言葉をも事

に変えていること。「戦争

にいかない。行きたくな

い」と言う「非国民！」

というSNSでの反応が来

ること。など、私としては

この国はどこへ向かつて

いるのか？という印象が残り

ました。

また、日本共産党、立憲

民主党、社民党、れいわ新

選組といった各政党や各市

民団体からの連帯のあいさ



扇町公園からのパレードの様子



阪神支部もパレードに参加

平和憲法の重要性を

あらためて考える

戦争させない、9条壊すな！5・3兵庫憲法集会

つがあり、終了後に3コー
スに分かれてパレードを行
いました。

集会参加のみなさんお疲
れ様でした。

執行委員 中川原 博

5月3日の憲法記念日に
神戸のみなとの森公園に於
いて「戦争させない、9条
壊すな！5・3兵庫憲法集
会」が開催されました。

阪神支部からは執行部・
ブロック・青年部あわせて
13名が参加しました。主催
者発表では全体で6500
名の参加がありました。

主催者あいさつに立った
羽柴 修弁護士は憲法の重
要性と憲法改悪に向けた政
府の動きに危機感をもって
いることを話され、「憲法

9条があるからいまの平和
がある！」と力強く訴えか
けました。

来賓あいさつには立憲民
主党兵庫県代表の井坂 信
彦衆議院議員をはじめ、各
政党や市民団体の代表者が
連帯のあいさつを行いました。

メインスピーチでは兵庫
県神戸市出身で俳優・ナレ
ーター・ラジオDJなど幅
広く活躍されている松尾
貴史さんが「ピースメッセ
ージ」を行い平和の大切さ

を訴えまし
た。

松尾さん

は幼少期に

過ごした神

戸での思い

出を語り、

「阪神大震

災以降の行

政の施策に

は納得がい

かない」と

憤っていま

した。

憲法につ

いては「国

の一番上に

位置し、骨

組みである

憲法は何の

ためにある

のか。それは権力者が暴走

しないためにある。権力者

側である政治家が憲法を変

える事がすでに憲法違反で

はないか。それも改正では

なく改悪である。これは泥

棒が刑法を変えるに等し

い」とし、「憲法改正を支

持する人もムーブだけで

『先進的憲法を』などと言

っているが恒久的な平和を

うたう憲法が本当に時代に

あつていないのだろうか。



執行部とブロック・青年部も参加

ださい。（意志のない）多
数派に流されない強い意志
を持ってください」と呼び
かけてスピーチを終えまし
た。

その後、第25代高校生平
和大使から活動を通して核
兵器廃絶と世界平和の実
現。戦争の悲劇を語り継ぐ
ことの大切さを学んだこと
を憲法アピールとしてのス
ピーチがありました。

参加者は高齢者が多くな
ってきていますが、若い世
代も少なからず参加してい
ました。高校生平和大使の
言うように次の世代につな
いでいく事も重要であると
感じました。

集会後、3つのコースに
分かれてパレードを行い、
憲法集会を終りました。

副委員長 道下 拓也



松尾 貴史さん

さらに、憲
法や平和につ
いて「身近な
人たちと語り
合う機会をも
つと持つてく



参加者が多く、久々に大規模パレードとなった

専門部リレートーク

#④ 労災職業病対策委員会

労使共通の認識でゼロ災害を 実現する取り組み

阪神支部労災職業病対策委員会（労職対）では、組合員のいのちと健康を守る事を目的に活動しています。

月1回を目標に定例会議を開催し、支部・分会での課題や労災報告などと併せ、中央・関西地本からの情報も共有しながら議論を重ねています。



内部講師を立てての学習会

これまで40年近くの活動の歴史があり、阪神支部の中での重要な機関で、これからも労職対の取り組みを後退させることなく積み重ねていくことが重要です。

以下に、主な活動についてご紹介します。

① 労働基準監督署懇談会

② 労職対学習会

組合員の学習を目的に講師を招いての講演や、委員が部内講師となって事務・現業・乗務の分科会を行っていただきます。委員が自ら講師をする事で、自身の学習にもつながります。

分科会で意見を出し合う

今年は「睡眠の重要性について」（仮題）のテーマでリモートにて学習会を7月29日(土)に開催予定です。分会の安全

担当者の参加をお願いします。

③ トラクスメ

ーカー及び、神戸港コンテナターミナル災害防止協議会懇談会

トラクスメーカーには安全で快適な車両の開発を、災害防止協議会にはターミナル内での危険作業や路面補修、標識の改善などを求めています。

今期は執行部の担当者として

全港湾阪神支部 安全衛生委員会 第33回 定期総会



2018年 安全衛生委員会総会



現在の労職対委員のメンバー

分会委員の参加を合わせ、

11名の委員が活動しています。安全衛生は労使の共通の課題であり、お互いの意見を確認しながら共通認識のもと取り組む必要があります。

災害ゼロの実現に向けて、今後発展した議論を重ねていきます。

労職対事務局長

入江 友規

関西地本トラクク部会 行政要請行動

中央海コン・トラクク・

バス・タクシー合同対策会議に先駆けて、関西地本トラクク部会は各支部8名参加のもと、4月24日に国土交通省近畿運輸局、同近畿地方整備局、そして5月10日に厚生労働省大阪労働局

へ要請行動を行いました。

近畿運輸局では、自動車交通部旅客第一課の金沢氏をはじめ貨物課、保安課等の専門官13名に應對していただきまし。中央本部要請書を基本とした、海コン・トラククとバス・タクシ

ーの二種類の要請書を事前に提出し、それぞれの回答を求めました。

特に関心が高い海上コンテナの標準的な運賃について運輸局側は「運輸局としてパンフレットを作成し、

本年3月に荷主向けに説明会を行った」と回答しましたが、組合側は「まだまだ荷主や元請け業者に浸透しておらず、理解も得られない状況である」と荷主、元請けと中小企業との優越関係が払拭できない厳しい実情を訴えました。

また「パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化施策パッケージ」についての回答では、「適正な運賃取引が行われるために不当な荷主に対しては指導・強化を行っている」としました。

旅客部門に関しては、コロナ禍で未だに事業者も労働者も経済的に非常に影響が大きく厳しい状況である

ことを強く指摘したことに對し「近畿運輸局として判断しかねる」として、本省へ上申するに留めました。

組合としては、特にバス制度の在り方について「運賃の過当競争をしているためにドライバーに負担がかかっている」現状を訴え、低価格で請け負わせる「悪質な企業を厳しく指導してほしい」と求めたことに對して、運輸局も「組合側か

らも情報をどんどん上げていただきたい」と述べました。さらに組合は5月26日に衆院会館で開催される中央要請までには、本省に對し必ず上申するよう求めました。

同日の午後からは近畿地方整備局を訪れ、道路管理や通行許可申請などの申し入れを行いました。

特にドライバーの重要な休息場所である高速道路におけるサービスエリアやパーキングエリアでの大型車及びトレーラーの駐車スペースが少なく、時には乗用車が駐車しているため、仕方なく本線合流までの加速車線路肩や高速バスの停留所に停車せざる負えない状況について訴えました。

このような駐車は大変危険であり、安全面はもとより、適切な駐車ができない状況ではドライバーの労働強化になります。

また、この問題と関連するものがETCの深夜割引ですが、時間帯の拡充はもちろんのこと、割引制度の見直しについても、運送事業者の負担を極力減らすことが重要である

ので、少しでも良い制度にすることを求

めました。

そして、5月10日には大阪労働局を訪れ、主任監督官ら6名が応対しました。

労働局に對しては、根幹である労働者の働き方の問題や賃金の問題、さらに「トラクク労働者の改善基準告示」が悪徳業者の横行で厳守されていない現状を訴えました。

労働局の回答としては概ね「各項目を本省に上申する」に留めましたが「悪質業者に對しては運輸局と連携をし、実施していく」と回答しました。

2日間の行政要請行動は各省時間の制限もあり十分とはいえませんでした。中央要請では改めて要求に對する回答を引き出したいと考えています。特にバス・タクシー労働者は関西にしかいませんので今後も粘り強く継続して、労働環境改善に向けて努力する所存です。

副委員長 松本 栄二



近畿運輸局への要求書提出

第46回5・15沖縄平和行進

沖縄・日本をあらたな戦前にさせないために

5月12日から14日まで沖縄県で開催された「第46回5・15沖縄平和行進」に参加しました。

今回の平和行進が私自身初めての参加で、阪神支部から一人であったため、期待と不安が入り混じっていたものの、関西地方メンバーをはじめ、大勢の方が気さくに接していただいたお陰で初日から皆さんと打ち解けることができました。

私が今回の平和行進全体を通して感じた事は、今の日本は再び戦争を起こそうとしている事(戦争が出来る国化)、その現実を私たちは知らないでは済まされ



関西地本の参加メンバー

ない事、これからは戦争を経験していない人たちが戦争の歴史を伝えていかなければならない事です。

います。

岸田政権は敵基地攻撃能力を「反撃能力」と後付けのように訂正しましたが、先制攻撃を可能とする本来の内容に変わりはありません。もし、82年前に日本が

起こした真珠湾攻撃と同じ過ちを犯せば、日本が戦争の渦中に陥れることは明白です。そうした現実から私たち国民は決して目を背けてはいけないと今回の平和行進で強く思いました。

今回、視察で訪れたひめゆり資料館では、戦争のために労働を強いられ、戦闘に巻き込まれ命を落とした未来ある学生136人の名



長く伸びる行進の列

前が記されていました。

この中に戦争で亡くなることを望んでいた人は誰一人としていません。しかし、いざ戦争が勃発すると真っ先に犠牲になるのは戦



参加者の意気も上がる結団式

分かるかな？

懸賞クイズ



【問題】

セロハンテープは何から出来ているでしょうか。

- ① 木
- ② 米
- ③ プラスチック

666号の回答

「③徳川光圀」と言われています。

5名の方から応募がありましたが、全員が正解でした。以下の方にQ.U.Oカードを進呈します。
萩原幸一(シンケン)、松井謙一(三林)、西野太基、松尾徹、住昌三(ジャパンEXP)

667号の締め切り日は、6月7日(水)です。ふるってご応募ください。

カマヤン タイムスリップ ありむら潜



闘の最前線に出される私たち若者です。だからこそ若者が団結して声を上げ、戦争反対の意思表示を明確にするべきだと感じました。その意思表示の一つが沖縄の平和行進に参加することだと思いました。

それぞれが平和への思いを胸に糸満市役所から平和記念公園までの約10kmの道のりを歩きました。参加したメンバーも私自身もこの平和行進には様々な思いがありました。

の無い世の中になりたい、人種や過去に囚われず、すべての人々が互いに手を取り合える世界になつてほしい。思いは皆同じであったので、本当の意味で団結した行進になったのではないかと思います。

1945年8月15日に終戦を迎えてから、戦争を経

験した人たちによつてその過ちと二度と戦争をしないけない教訓が語り続けられていました。しかし、月日は流れ、現在は終戦後に産まれた年代の人々がこの歴史を語らなければいけません。その時には戦争があつた過去を正しく伝え、再び日本が戦争を起こす国になつてはならないことを後世に語り継ぐのが私たちのこれからの責任です。

そのためには実際に戦争の跡地や米軍基地のある沖縄に実際に足を運び、見て、聞いて、学ぶことこそ平和への第一歩だと思つたので、今回の経験を生かして平和な世の中を実現するために、一人一人が取り組めること

に全力で取り組んでいきたいと思ひました。



全国から集った全港湾の仲間たち

青年部副部長

村尾 祐紀